



# リンパ管フィラリア症

世界の多くの人々を苦しめる深刻な疾患の撲滅に向けて

GLOBAL COMMUNITY PARTNERSHIPS



GlaxoSmithKline

生きる喜びを、もっと  
Do more, feel better, live longer



## 世界の多くの人々を苦しめる深刻な疾患の撲滅に向けて

リンパ管フィラリア症(象皮病)は、蚊によって人から人へと伝染する悲惨な寄生虫感染症で、現在、世界83カ国で1億2000万人もの人々が感染しています。

リンパ管フィラリア症は、世界の主要な身体障害原因の一つに挙げられており、働けないことなどによる経済損失は、数十億米ドルにもなるとされています。世界人口の20%近くがリンパ管フィラリア症の感染リスクにさらされているにも関わらず、その影響を受けていない国では全く知られていません。

リンパ管フィラリア症は、アフリカ、アジア、太平洋地域、中東、中南米の熱帯、亜熱帯地方に見られ、蚊によって人から人へと伝染します。リンパ管フィラリア症に感染している人を刺した蚊は、血液の中にいる微小な寄生虫(ミクロフィラリア)も同時に吸い込み、寄生虫は蚊の体内で感染力のある幼虫に成長します。その後、幼虫は蚊の口の部分に移動して、次に刺された人の血液に新たに入り込みます。

一度感染すると、成虫は数年間生き続け、何百万もの未成熟虫を産みます。成虫は、人間のリンパ管に入り込み、大きな被害を

もたらします。リンパ系はリンパ節、リンパ管、胸管などのリンパ器官からなる複雑なシステムで、免疫系統の一部を構成します。感染すると、四肢(リンパ浮腫)や男性性器の肥大(陰囊水腫)を発症することがあり、リンパ機能の低下により、一般的な皮膚感染に対する抵抗力も弱まり、急性の発熱や痛みを伴う炎症という悪循環をもたらすのです。



多くの人が、最初の感染から何年も経過しなければ、リンパ管フィラリア症に感染したことに気付きません。感染者の約半数は症状がないのですが、体内では感染が活動期にある場合もあります。

生命を脅かすほどではないものの、身体症状のある感染者は、人生の最も働き盛りの時期に影響を受けます。リンパ管フィラリア症に伴う障害と日常生活に支障がでるほどの急性の発作によって働くことができず、生活も貧困に陥ります。これに加えて、多くの場合偏見にさらされ、日常生活の保障となる結婚においても相手として望ましくないと見なされることもあります。

グラクソ・スミスクライン(GSK)は、「リンパ管フィラリア症撲滅のための国際協力」を共同で設立した一社です。この組織の唯一の目標は、この身体の形状を損ない身体障害をもたらす疾患を撲滅させることにあります。

『これまで成し遂げてきた業績すべてが、アルベンダゾールを寄贈するだけでなく「リンパ管フィラリア症撲滅のための国際協力」のような積極的なパートナーシップを支援するGSKの惜しみない取り組みのお陰です。』  
「リンパ管フィラリア症撲滅のための国際協力」エグゼクティブ・セクレタリーおよびロイヤルソサエティー・オブ・トロピカルメディスン・アンド・ハイジーン  
プレジデント デビッド・モリヌ教授

## GSKの取り組み

GSKは、1998年に世界保健機関（WHO）との協力のもと、リンパ管フィラリア症撲滅へ向けた取り組みを主導していくことを発表しました。以降、この取り組みは「リンパ管フィラリア症撲滅のための国際協力」として、世界規模の官民共同の大きな取り組みへと発展しました。

GSKは、その取り組みの一環としてリンパ管フィラリア症の感染を食い止めるのに不可欠な駆虫薬のアルベンダゾールを、この病気を撲滅するまでの必要期間にわたり寄贈することとしました。

アルベンダゾールは、メクチザン™（一般名：イベルメクチン、メルク社が寄付）またはジエチルカルバマジン（DEC）との併用で服用されます。これまで（2008年初旬）世界46カ国に1億4000万米ドル相当の7億5000万錠を寄贈しました。

アルベンダゾールの寄贈の他に年間約200万米ドルの資金をこの国際協力に提供しています。これらは撲滅に向けた協力体制、モニタリングと評価、研修、教育、広報活動など幅広い分野で支援しています。GSKの寄付金は、GSKスタッフから成る専門チームにより管理されています。

## グローバルな提携関係

リンパ管フィラリア症のような疾患を世界的に撲滅するには多くの異なる組織の積極的な参加が必要です。1998年にGSKがこの取り組みに参加し始めて以来、WHOやリンパ管フィラリア症の影響を受けている地域のリーダーと官民協力体制を構築し、撲滅に向けたこのプログラムを強化してきました。

2000年5月にスペインで開催された会議で「リンパ管フィラリア症撲滅のための国際協力」が正式に設立されました。リンパ管フィラリア症の影響を受けている国の保健省の他、薬剤の寄贈者、国際機関、大学や研究機関、非政府組織を含む40以上の組織から構成されています。

この国際協力は、資金調達、アドボカシー、コミュニケーションと技術的援助を行い、同プログラムの2つの目標を支援しています。

1. 2020年までにリンパ管フィラリア症を撲滅
2. リンパ管フィラリア症に起因する障害を持つ人々の身体的、社会的、経済的苦難の緩和

## 寄生虫の阻止

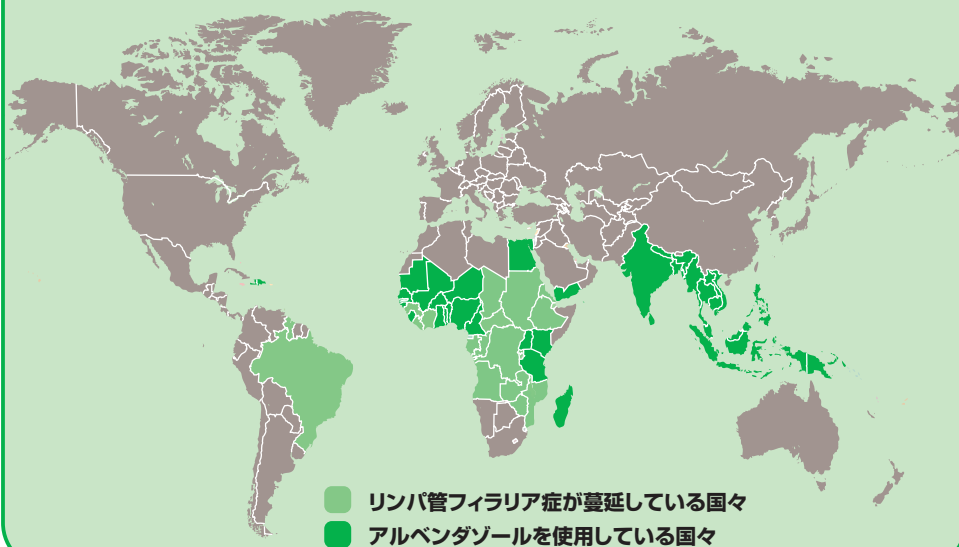
リンパ管フィラリア症を撲滅するには、蚊から人への伝染を阻止しなければなりません。これには、感染リスクのある全人口の80%以上にアルベンダゾールともう1つの駆虫薬を1年に1回、最低5年間にわたり併用服用することが必要です。


リンパ管フィラリア症に加えてオンコセルカ症（河川盲目症）も流行しているアフリカとイエメンでは、アルベンダゾールとメクチザン™（一般名：イベルメクチン）の治療が行なわれています。感染リスクのある他の国々では、アルベンダゾールとジェネリック品のジエチルカルバマジン（DEC）が使われています。

共に目的は、血液中の感染力のある幼虫を駆除し、同じ地域に住む非感染者への伝染を阻止することにあります。これを効果的に行なうためには、僻地に住む人々にも治療の手を差し延べ、確実に薬剤を服用してもらわなければなりません。そのためは、これらの地域の人々がこの疾患を理解し、予防の重要性を浸透させることが必要です。

既にリンパ管フィラリア症の症状がある感染者には、リンパ浮腫のための簡単な皮膚衛生管理の教育や男性の陰嚢水腫のための外科手術を行なう障害予防プログラムがあります。症状を緩和することで職場復帰を含め普通の生活を取り戻すことができるようになるのです。

## リンパ管フィラリア症が蔓延している国々





スリランカでは  
WHOが推奨する最低5年間にわたる年1回の  
集団服用を完了。

## これまでの実績

2000年初頭から2006年末までに4億錠以上のアルベンダゾールが46カ国で併用服用されました。これまでにエジプト、いくつかの太平洋諸島、スリランカ、ザンジバル、トーゴでWHOが推奨する最低5年間にわたる集団服用が完了しています。これらの国々では、同プログラム実施後の調査と、残存している感染に対する治療が行なわれています。他国も同プログラムに参画したり、既存の活動を新たな地域へと拡大したりしています。

治療が行なわれている地域で産まれた赤ちゃんは推定2500万人とされており、全員がこの生活に支障を来す疾患の感染リスクにさらされずに済みます。

アルベンダゾールは、リンパ管フィラリア症に加えて腸管寄生虫感染を治療・予防するという付随効果もあります。世界のいくつかの地域では90%以上の子供が腸管寄生虫に感染しており、貧血や栄養失調、発育不全の主な原因となっています。腸管寄生虫に感染している子供たちに推定5000万錠以上のアルベンダゾールがこれまでに服用されました。

タンザニアで集団服用に参加しているリンパ管フィラリア症患者者では、病状が改善しており、足の腫れも以前ほどではなく、急性発作の回数・持続期間が減少していると報告されています。この付随効果は予想外で、症例を記録し、理解を深めるために現在調査が行なわれています。

## 将来

リンパ管フィラリア症撲滅プログラムは、巨大なチャレンジです。1年に1回、最低5年間にわたって10億人に治療を施すことを意味します。これを成功させるには、10億米ドル以上相当、約60億錠のアルベンダゾールによる治療が必要であるとされています。

治療プログラムの拡大や全国規模の実施に着手する国の増加に伴い、これまで収めてきた成功は継続していくでしょう。しかし、最も必要なことはリンパ管フィラリア症の世界的な啓発であり、新たな協力団体との提携、資源の確保を通じてこの疾患を確実に撲滅させることができるでしょう。

リンパ管フィラリア症は何世紀にもわたり、治療や予防がほとんど期待できないということから、顧みられることのない病気でした。現在、この状況は変わり、疾患を管理し、影響を受けている人々が希望を持つことができる状況にあります。2020年までにリンパ管フィラリア症の撲滅宣言をすることを目標としています。

さらに、いくつかの国ではリンパ管フィラリア症撲滅プログラムを他の顧みられることのない亜熱帯疾患予防対策に組み込み始めており、公衆衛生上のベネフィットがさらに高まっています。例えばいくつかのサハラ以南のアフリカ諸国では、リンパ管フィラリア症の治療薬と共に住血吸虫症やオンコセルカ症（河川盲目症）を含む他の寄生虫疾患の治療薬が配布されています。

## ケース・スタディー

# リンパ管フィラリア症と生きる—タンザニアのサルタンの話

23歳のサルタンは、筋肉質でそのたくましい体はTシャツを着ていても分ります。それでもサルタンは、人と目を合わせようとしません。野球帽を目深にかぶるために表情がわかりません。幅の広いジーンズをはき、リンパ管フィラリア症で腫れ上がった足をつつみ隠しています。

サルタンは、12歳から症状が現れました。足の痛みと我慢できないほどのかゆみの後、足が腫れ始めたのです。登校を続けようとしたのですが、症状が悪化し、学校に通うことができなくなりました。

サルタンによると朝起きた時の足の腫れは以前よりも随分と小さくなったけれど、午後には腫れが大きくなり、足が重くなると言います。そのため普通の生活を送ることはできませんが、最も苦痛なのは、急性の発熱などの症状です。サルタンも多くのリンパ管フィラリア症患者のようにこれらの急性の症状を1カ月に1回、場合によっては2回と定期的に発症し、長い時は7日間も続きます。この熱を伴う症状で、働くことが困難な状況なのです。

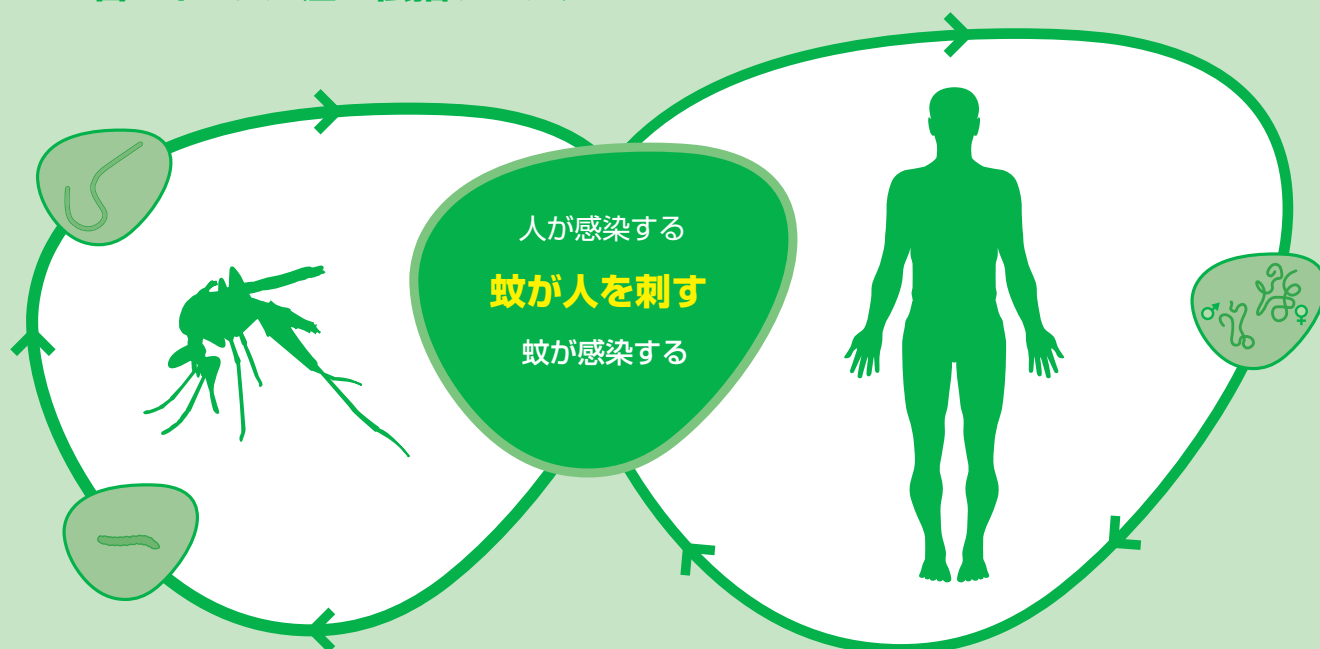
この疾患と高等教育を受けていないため、定職に就くことがほとんどできません。従って自営業を営んでおり、仕事ができる時は水を運搬しています。

彼の病気に対する地域の人々の反応を理解・説明するのは難しいことです。同情する人や不快感を見せる者などさまざまです。



地域に由来からある民間医療に頼っていましたが、効果はありませんでした。今は、タンザニアにある彼の住む町にもリンパ管フィラリア症撲滅プログラムが実施され、集団接種に参加しています。また、足の手入れ方法を学ぶことで、この病気による障害を管理し、緩和することが期待されます。

## リンパ管フィラリア症の伝播サイクル



蚊の中でリンパ管フィラリア症のミクロフィラリアが幼虫に成長する

人の体内でリンパ管フィラリア症の成虫が育ち繁殖する

## プログラムを支える人々

リンパ管フィラリア症は、貧困と関連している疾患です。患者はしばしば劣悪な生活環境に置かれており、この疾患に伴う障害で働くことができないため、貧困の悪循環がさらに大きくなるのです。

世界からリンパ管フィラリア症を無くすためには、その影響を受けている地域に対してこの疾患を啓発し、感染を食い止めるための治療を受ける動機付けが必要です。そのためには、資金不足や他の慢性疾患、社会不安にさらされている国にあることが多い僻地や行くことが困難な地域で働く現地の専門チームが必要です。

撲滅プログラムの立ち上げと運営は複雑なプロセスであり、熱心なプログラムマネージャーやフィールドで働く専門チームを要します（多くがボランティア）。これらの人々はこのリンパ管フィラリア症撲滅プログラムの陰の英雄であり、彼らなしでは現在の成功はなかったでしょうし、今後の成功にも不可欠でしょう。



グラクソ・スミスクラインは、人々が心身ともに健康でより充実して長生きできるよう、生活の質の向上に全力を尽くすことを企業使命としており、私たちが開発・販売している医薬品やワクチンを通してだけでなく、幅広い社会貢献プログラムを通じてこの企業使命を追及しています。

### ウェブサイト

グラクソ・スミスクラインおよびリンパ管フィラリア症についての詳細は、[www.gsk.com/filariasis](http://www.gsk.com/filariasis)をご覧ください。

### 連絡先

Lymphatic Filariasis programme director  
Global Community Partnerships  
GlaxoSmithKline  
980 Great West Road  
Brentford, Middlesex  
TW8 9GS  
UK  
E-mail: [community.partnerships@gsk.com](mailto:community.partnerships@gsk.com)

### 発行・問い合わせ

グラクソ・スミスクライン株式会社 広報部 Tel: 03-5786-5030 <http://glaxosmithkline.co.jp>  
2008年6月発行



AFUTUREFREEOFLF  
GlobalAlliance

[www.filariasis.org](http://www.filariasis.org)